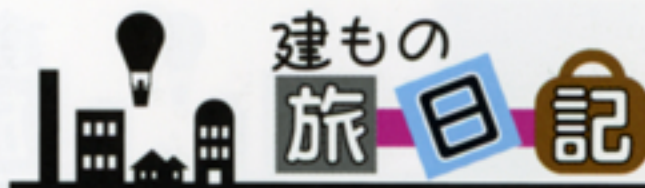




第6回



(社)日本建築家協会 沖縄支部

金城 司

門一級建築士事務所

京都の川辺と生活環境



京都の川辺と人々の生活

最近の高校生の修学旅行先は海外に行く学校も普通にあるとよく耳にする。私が学生の頃の修学旅行先の定番と言えばやっぱり、京都や奈良そして長崎に鹿児島などであっ

た。

海外なんて未だに新婚旅行でのツアーでまわったくらいだ。ツアーコンダクターの旗ばかり見てまわったせいかわつたのかイタリア旅行も真っ赤な旗の揺れる思い出でいっぱいである。よく建築家は世界中を旅をするとか聞くと非常にまれな建築家かもしれない。もともと臆病者の私は旅が苦手なのである。そんなこともあって周りからは「もっと旅をしなさい」とよく励ましの意味も含めたアドバースを頂く。

そんな周りからのアドバースを受けJIA(日本建築家協会)の入会を期に、年に一度開かれる

自然と共生する町—京都

全国大会へは毎年参加することにしている。去年の全国大会は京都大会であった。久しぶりの京都。高校の時、修学旅行でまわったという事もあり、いつもと違い気持ちも軽い。

京都に着いてからは町並みを楽しみながら歩きに歩きまわった。古い町並みや歴史的建造物、静寂に包まれた寺院建築やきれいに手入れされた庭々路地裏から見え隠れする京都の生活感など全てにおいて刺激的な体験であった。学生時代とはまた違った感動と発見があり大きな収穫があった。やっぱり京都はすごい。やっぱり旅はしてみるといいもんだなあと思ふ。旅が苦手な私ですら心変わりをしてしまった。

一日中歩きまわり、ふと気がつくとも暮れかかっていた。疲れた体を休めるため川辺で休んでいるとある事が気になりだした。川沿いに手摺がない！よくよく思い出し



手摺のない川辺

てみると一日中歩きまわって見た場所場所の川沿いにはほとんど手摺のついてる場所があまり思いだせないのである。子供や酔っ払いが川に転落しては危険ではないのか。川は危険であり同時に、恵みの賜物でもある。危険性も利便性も生活環境に溶け込んで生活が営まれているのが京都らしさかもしれないと感じた。危険性を物理的に除去する現代的な解釈で町並みは作られてはならず、自然そのものと共生する町が京都なのだと思ふ。夜風が打たれながら、この旅を振り返っていた。その後は夜のネオン街へと一人旅を実行した。やっぱり旅はいいもんだ。

(※掲載写真は著者提供)